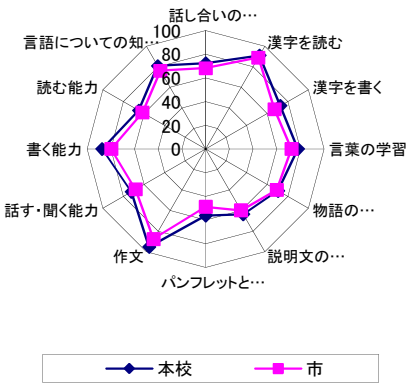
# 宇都宮市立昭和小学校 第６学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | |
|---|---|---|---|
| | | 本校 | 市 |
| 問題の内容別 | 話し合いの内容を聞き取る | 72.3 | 68.2 |
| | 漢字を読む | 90.9 | 89.0 |
| | 漢字を書く | 72.7 | 67.0 |
| | 言葉の学習 | 77.8 | 72.3 |
| | 物語の内容を読み取る | 70.5 | 69.2 |
| | 説明文の内容を読み取る | 63.6 | 59.8 |
| | パンフレットと話し合いの内容を読み取る | 56.3 | 48.9 |
| | 作文 | 95.5 | 87.8 |
| 観点別 | 話す・聞く能力 | 72.3 | 68.2 |
| | 書く能力 | 87.3 | 79.5 |
| | 読む能力 | 65.0 | 61.5 |
| | 言語についての知識・理解・技能 | 80.9 | 76.2 |



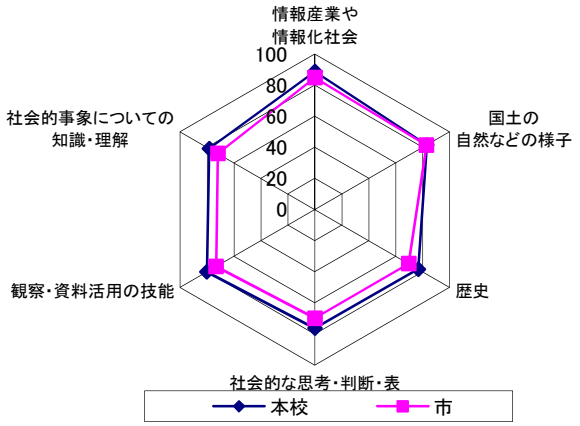

## ★指導の工夫と改善

| 問題の内容 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|---|---|---|
| 話し合いの内容を聞き取る | ・平均正答率は約72%で市の平均を上回っており，ほぼ身についているといえる。<br>・設問別に見ると，話し手の意図を考えながら聞くことはよくできているが，話し合いの場で司会者としての役割を理解して適切な言葉づかいを問う問題は正答率42%と低かった。 | ・今後も1分間スピーチなどを継続し，自分の意見をしっかり伝えられるようにするとともに，相手の意図を考えて聞いたり，自分の考えと比べて聞いたりする習慣をつけ，考えながら聞くことができるようにする。また，話し合いの流れを考えながら，発言を整理していく司会者の役割を体験させ，相手の発言を流れの中で理解させる。 |
| 漢字 | ・漢字を読む問題の平均正答率は約90%で市の平均とほぼ同じで，よく身についているといえる。<br>・漢字を書く問題に関しては平均正答率約73%で市の平均を約5ポイント上回っている。<br>・設問別に見ると，第5学年配当漢字の書き(永久，耕す)の正答率が低かった。 | ・5学年までに学習した漢字について，特に「書き取り」の練習を重点的に行い，定着を図る。同じ部首の漢字や似た意味の漢字，同訓・同音の漢字や送り仮名などについても復習し，さらなる定着を図る。<br>・読書の奨励や辞書の活用などにより，漢字に触れる機会を増やし，学習した漢字を使って文章を書こうとする意識と習慣をつけ，より幅広い漢字の知識が身に付くようにする。 |
| 言葉の学習 | ・平均正答率は約78%と市の平均を上回っており，ほぼ身に付いているといえる。<br>・設問別に見ると，熟語の構成と俳句についてはよくできていたが，敬語の使い方(尊敬語，謙譲語)の問題の正答率が特に低かった。 | ・漢字辞典の引き方について復習をし，新出漢字やわからない漢字を漢字辞典を使って自主的に調べる習慣をつけていく。<br>・日常生活の中で使用している言語，特に敬語について，正しい使い方ができるよう，日ごろから意識づけをしていく。 |
| 物語の内容を読み取る | ・平均正答率は約70%と市の平均と同程度の定着である。<br>・設問別に見ると，登場人物の心情を読み取る問題はよくできていたが，登場人物の様子を読み取る問題は正答率が低かった。 | ・登場人物の様子や心情を読み取る学習を意図的に行い，読む力を高める。<br>・今後も読書タイムや読み聞かせの機会に多くの物語に親しませて読書に対する関心を高め，読書量を増やし，読解力を高めていく。 |
| 説明文の内容を読み取る | ・平均正答率は約63%で市の平均をやや上回っているが，十分定着しているとはいえない。<br>・設問別に見ると，段落と段落の関係を読み取る問題よくできているが，複数の段落にわたっての記述を読み取り要約して説明する問題の正答率は約48%と低かった。 | ・説明文を読む機会を増やし，接続詞に着目して文章の構成を考える学習などを行い，段落と段落の関係をとらえたり，文脈に即して書かれている内容を読み取ったりする力を伸ばしていく。 |
| パンフレットと話し合いの内容を読み取る | ・平均正答率は約57%と低く，市の平均をやや上回っているが，十分に定着しているとはいえない。<br>・設問別に見ると，資料をもとにした話し合いの内容を理解しパンフレットの改善点を考える問題では，正答率は約46%で低かった。 | ・新聞やパンフレットなどの資料から，必要な情報を読み取り，簡単な文章でまとめる学習に取り組む機会を多くする。また，友だちの作品を読みあう機会を設け，作者の伝えたかったことを適切に読み取ることができるようにする。<br>・他教科(社会科・総合)との関連も図りながら，資料から情報を読み取ったり，必要な情報を資料にまとめたりする学習を意図的に取り入れる。 |
| 作文 | ・平均正答率は約96%で，市の平均を約8ポイント上回っており，十分身に付いているといえる。<br>・二つの意見を読んで，どちらの意見に賛成か立場を明らかにしながら自分の意見を書く問題であったが，93%以上の児童の意見とその理由を区別して書くことができた。 | ・行事の感想や日ごろの学習の振り返りなど，児童の感動や思いを適時文に表現させる機会を今後も設け，さらに書く力をつけていく。<br>・あらかじめ書きたい内容を構成メモに整理することにより，場面や内容ごとに段落を分けて書くようにさせる。 |

# 宇都宮市立昭和小学校 第６学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | |
|---|---|---|---|
| | | 本校 | 市 |
| 領域別 | 情報産業や情報化社会 | 88.6 | 84.7 |
| | 国土の自然などの様子 | 83.0 | 82.7 |
| | 歴史 | 76.7 | 69.5 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| 観点別 | 社会的な思考・判断・表現 | 76.3 | 69.9 |
| | 観察・資料活用の技能 | 80.2 | 73.3 |
| | 社会的事象についての知識・理解 | 78.4 | 71.9 |
| | | | |



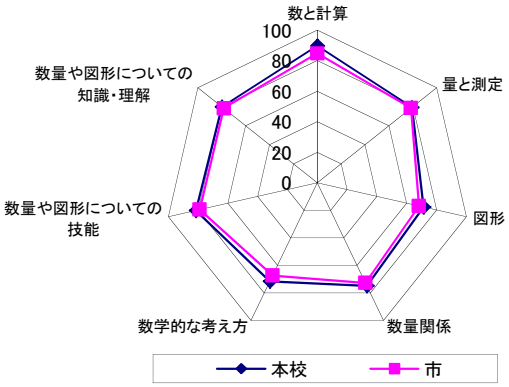

## ★指導の工夫と改善

| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|---|---|---|
| 情報産業や<br>情報化社会 | ・平均正答率は約89%で，市の平均を4ポイント上回っている。<br>・設問別に見ると，メディアの種類とその特徴について考察する問題では，正答率が約86%で市の平均をやや下回っている。また，ホームページを作成する際の注意点について判断する問題では正答率が96%を超え，よく定着している。 | ・日常的に新聞やテレビ，インターネットなどを活用し，世の中の動きなどについての興味を持たせるようにする。また，それぞれのメディアの良さを生かした活用の仕方を考えさせる機会を設ける。<br>・ホームページなどメディアでの情報発信について，利便性を理解させるとともに，他者への配慮を欠いた場合の危険性を十分に理解させる。身近なメディアである携帯電話の利用についても考えさせる。 |
| 国土の<br>自然などの様子 | ・平均正答率は約83%で，市の平均とほぼ同じでありほぼ定着しているといえる。<br>・設問別に見ると，資料から林業の現状を読み取って解答する問題では，正答率が90%以上であった。一方，環境を守る取り組みについて判断を問う問題では，正答率が約75%と十分ではなかった。 | ・日常生活の中での環境を守る活動を意識させ，自分にもできることを実践できるように働きかけ，実践力を身に付けさせる。<br>・複数のグラフから自分の意見を述べるために必要な資料を選択するなどの学習活動を通して，社会的思考力を高めていく。 |
| 歴史 | ・平均正答率は約77%で，市の平均を7ポイント上回っており，ほぼ定着いている。<br>・設問別に見ると，縄文時代に使われていた道具の用途や，室町時代に活躍した人物と代表的な建築物を関連させて答える問題では，正答率約97%と高かった。江戸幕府の大名配置について，資料をもとにその方法や目的について考察する問題では，正答率50%と低い。資料を活用する | ・複数の資料から共通点を見出したり，自分の考えを述べるために必要な資料を選択したりする活動を継続的に行うことで，社会的な思考力・判断力を高めていく。<br>・歴史的事象の名称や内容についての理解は図られているが，その意図や目的についてまで理解されていない。単に名称を覚えるだけでなく，その他の歴的事象との関連や時代背景などについても調べさせる機会を設け，理解を深めさせる。 |
| | | |
| | | |
| | | |

# 宇都宮市立昭和小学校 第６学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | |
|---|---|---|---|
| | | 本校 | 市 |
| 領域別 | 数と計算 | 89.8 | 84.6 |
| | 量と測定 | 79.2 | 78.3 |
| | 図形 | 71.4 | 68.2 |
| | 数量関係 | 74.8 | 72.6 |
| | | | |
| | | | |
| 観点別 | 数学的な考え方 | 71.5 | 67.3 |
| | 数量や図形についての技能 | 81.4 | 78.9 |
| | 数量や図形についての知識・理解 | 79.8 | 78.2 |
| | | | |



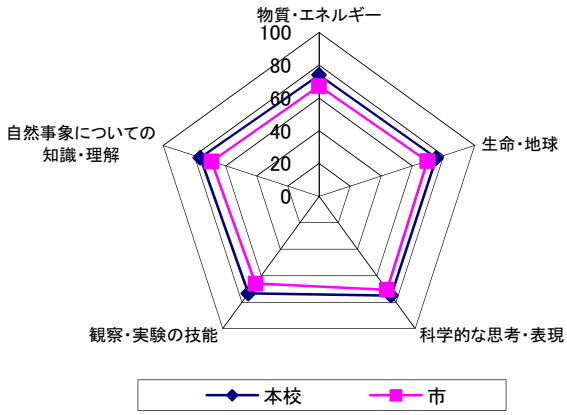

## ★指導の工夫と改善

| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|---|---|---|
| 数と計算 | ・平均正答率は約90%で，おおむね身に付いているといえる。<br>・設問別に見ると，「分数と整数」「分数と分数」の乗法や除法の計算は，いずれも90%以上の正答率で「逆数の求め方」は100%の正答率と高いものであった。<br>・図を使って分数の除法の文章問題に合った式を選択する問題の正答率は約46%と低かった。 | ・分数の乗法・除法の問題，特に2つが混じった計算に繰り返し取り組ませるとともに，計算の途中で約分ができる場合には確実に約分するよう，定着を図る。<br>・文章題に重点的に取り組ませ，正解を求める過程を図で表すようにし，内容に合った正しい式が立てられるようにする。 |
| 量と測定 | ・平均正答率は約79%で，ほぼ身に付いているといえる。<br>・設問別に見ると，時速を分速に直す速さの単位の関係の正答率と三角柱の体積を求める問題の正答率が低かった。 | ・「速さ」「時間」「道のり」のそれぞれを求める式を立てる問題では，復習をするとともに，時速を分速に直したり，秒速を分速に直したりする問題に重点的に取り組ませ，定着を図る。<br>・面積や体積は，公式を確認し，中学校に向けてしっかりと定着させておきたい。 |
| 図形 | ・平均正答率は約71%で市の平均を上回り，ほぼ身に付いているといえる。<br>・設問別に見ると，「点対称な図形」の対応する点を見つける問題の正答率は約90%と高いが，「線対称な図形」では約55%と低い。<br>・「半径から円周を求める式」の正答率が低かった。 | ・「線対称や点対称な図形の性質」について重点的に復習し「対称の軸」や「対称の中心」などについて，しっかり理解させ，線対称や点対称な図形を見分けたりかいたりできるようにして定着を図る。<br>・円周や円の面積を求める公式を確認し，重点的に問題に取り組ませるとともに，応用を生かして半径や直径の長さを求める式を立てられるようにする。 |
| 数量関係 | ・平均正答率は約75%で市の平均を2ポイントほど上回っている。<br>・設問別に見ると，比例は正答率約98%とよくできているが，反比例は正答率約66%と低い。<br>・等しい比を選ぶ問題は正答率が50%を下回り，定着が不十分である。 | ・「比例と反比例」については，重点的に復習し，ともなって変わる2つの数量関係の特徴をしっかりとらえさせ，比例や反比例の式が正しく立てられるようにする。<br>・「比」については，同じ数で乗法や除法をしても，比は等しくなることを重点的に復習し，定着を図る。 |
| | | |
| | | |

# 宇都宮市立昭和小学校 第６学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

| | | 本年度 | |
|---|---|---|---|
| | | 本校 | 市 |
| 領域別 | 物質・エネルギー | 74.0 | 67.3 |
| | 生命・地球 | 75.3 | 69.5 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| 観点別 | 科学的な思考・表現 | 74.9 | 70.6 |
| | 観察・実験の技能 | 73.4 | 65.9 |
| | 自然事象についての知識・理解 | 76.2 | 69.0 |
| | | | |




## ★指導の工夫と改善

| 領域 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|---|---|---|
| 物質・エネルギー | ・平均正答率は74%と市の平均を6．7%上回った。<br>・設問別に見ると、ものの燃え方と空気の問題では正答率が92%とよく定着している。水溶液の性質から溶けているものを答える問題では、正答率50%と低く、思考力がまだ低いことがわかる。<br>・電流が生み出す力を問う問題では、正答率が市の平均を2．1%下回り、78．4%となった。電磁石の極についての理解が深まっていなかった。 | ・水溶液の判断では、溶けているものを考える発展的な実験を行ってきた。そのため市の平均を25%上回ることができた。さらに思考力を高めるために実験を通して、筋道を立てて考える力を養いたい。<br>・電磁石については、5年の内容であることから復習を行いたい。 |
| 生命・地球 | ・平均正答率は75%と市の平均を5．8%上回った。<br>・設問別に見ると、人の誕生についての問題で85．2%とおおむね定着していた。また、動物のからだのはたらきについて消化の仕組みをよく理解し，正答率が市の平均を17%上回った。<br>・太陽と月の形では、太陽と月の位置から月の形を判断する問題の正答率が38．6%と最も低くなり、定着できていない。 | ・ヒトのたんじょうについては、成長の順に絵を並び替えるなどの活動が効果的であった。また、消化については、だ液の実験に加えて映像教材を利用して学んだことで、体の仕組みについて理解が深まった。さらに、教材を工夫することで理解を深めたい。<br>・太陽と月の形では、満月の時の太陽と月の位置関係を実際に見る経験をしたり、ことわざを紹介したりすることで復讐できるようにしたい。 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |